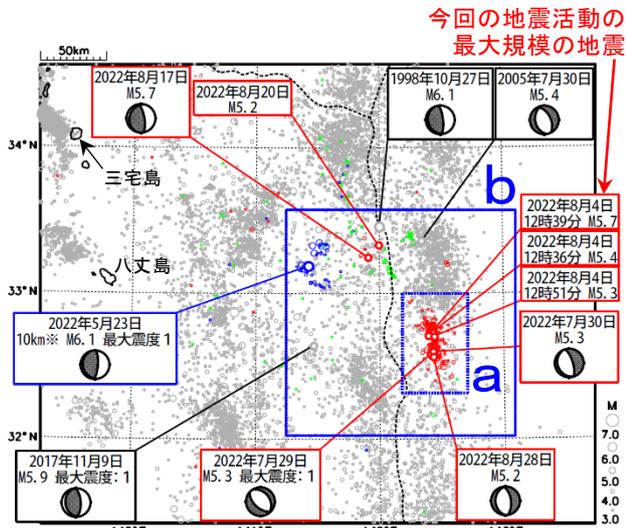


八丈島東方沖の地震活動

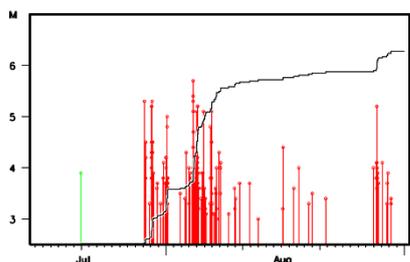
震央分布図

(1997年10月1日～2022年8月31日、
深さ0～120km、 $M \geq 3.0$)
2022年5月17日以降の地震を色付きで表示
5月17日以降：青色、6月1日以降：緑色、
7月29日以降：赤色
図中の発震機構はCMT解



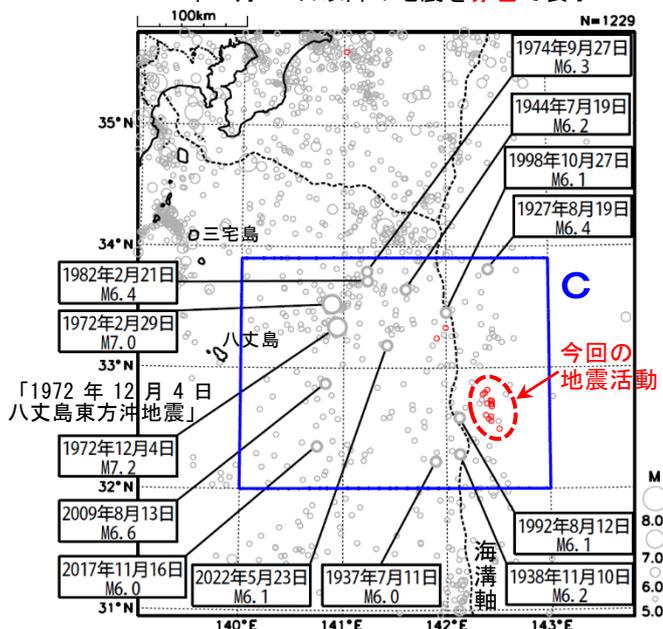
破線は海溝軸を示す。※深さはCMT解による

領域a内のM-T図及び回数積算図 (2022年7月15日～8月31日)



震央分布図

(1919年1月1日～2022年8月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 5.0$)
2022年7月29日以降の地震を赤色で表示

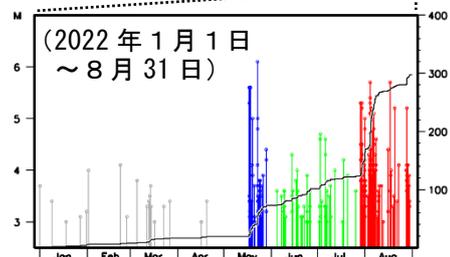
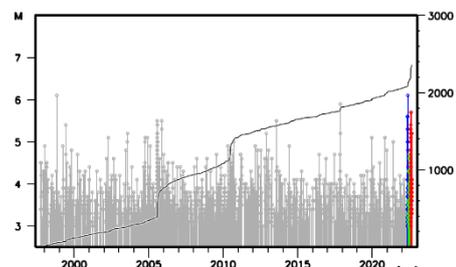


八丈島東方沖の海溝軸東側（領域a）では、2022年7月29日から地震活動が活発になり、8月31日までにM5.0以上の地震が14回（7月：3回、8月：11回）発生した（以下、今回の地震活動）。このうち最大規模の地震は、8月4日12時39分に発生したM5.7の地震（震度1以上の観測なし）であった。今回の地震活動は太平洋プレート内部で発生した。主な地震の発震機構（CMT解）は、北東-南西方向から東西方向に張力軸を持つ正断層型である。

また、この他、今回の地震活動域の北北西約80kmの海溝軸付近でも、8月17日にM5.7、20日にM5.2の地震（ともに震度1以上の観測なし）が発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震活動域の付近（領域b）では、M5.0以上の地震が時々発生している。2022年5月17日から23日には、領域b内の北西部で、M5.0以上の地震が7回発生した（最大規模は5月23日に発生したM6.1）。

領域b内のM-T図及び回数積算図



1919年以降の活動をみると、今回の地震活動域の周辺（領域c）では、M6.0以上の地震が時々発生している。1972年2月29日のM7.0の地震（最大震度5）では館山市布良で最大23cm（平常潮位からの最大の高さ）を、また同年12月4日のM7.2の地震（「1972年12月4日八丈島東方沖地震」、最大震度6）では串本町袋港で最大35cm（平常潮位からの最大の高さ）の津波を観測した。また、これらの地震により、八丈島で道路・水道の損壊や落石等の被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

領域c内のM-T図

